

クロージング

高橋清久（精神・神経科学振興財団）

大島巖（日本社会事業大学）

伊藤順一郎（メンタルヘルス診療所 しっぽふぁーれ）

宇田川健（認定NPO法人地域精神保健福祉機構・コンボ）

リハビリフォーラムの最後には、必ず「クロージング」のプログラムを設けます。

クロージングでは参加者の方々に、自分が参加できなかったプログラムで話し合われたことや雰囲気を実感していただくために、グループトークを行いました。

大教室に集まった参加者はおよそ 450 人。

近くに座っている参加者の方々が声をかけあい、7～8 人前後の小グループをつくり、自己紹介をし、それぞれの分科会の内容や話し合われたこと、今後のリハビリフォーラムに期待することなどについて話しあいました。

およそ 20 分の話し合いの時間はどのグループも大いに盛り上がり、会場は、熱気に包まれていました。

話し合いの時間が終了し、6 グループの代表者から、話し合ったことや参加しての感想を発表してもらいました。

以下は発表された内容の一部です。

——このグループでは、今回、リハビリフォーラムに初めて参加した人も多くいました。いろいろな思いを持って参加をし、さまざまなことを学ぶことができ、そうした内容や気持ちが共有でき、たいへん有意義でした。

——このグループには内科医の方もいました。見える化の試みは大変興味深かったそうです。風邪をひいて内科に行って熱をよく計りますが、あれには 100 円が徴収されています。自宅で計ってから行けば、その 100 円はかかりません。そのことはほとんど知られていません。そうしたほとんど知られていない仕組みなども見える化していくとよいと思う——とのことでした。

——このグループは、IMR の分科会に参加した人 5 人、デイケアの分科会に参加した人 5 人にきれいに分れました。「IMR は難しかった。リハビリの進化したもの？ これからに期待したい」「このフォーラムは、精神領域を対象としたものだが、さまざまな立場の人を対象としたフォーラムに発展させてほしい」などの意見がでました。

——このグループには、初めて参加の人 3 人がいたり、息子が病気の方がいたり、さまざまな立場の方が参加されていました。全員「ぜひ次回も参加したい」との意見でした。精神の領域以外のテーマを設けて欲しい、あるいは、一般の人にも参加して欲しい——などの意見が出されました。

——このグループでは、これからのリハビリフォーラムに望むことを話しあいました。総じて言えば、このフォーラムに来ることができる人は、ある程度よくなっている人たちです。ここに来ることができない人たちがたくさんいます。そうした人たちが人間としてのリハビリをするためのきっかけとして、この場に来てくれるようになるような、そんな工夫をみんなで考えていくべきだと話しあいました。

——リカバリーフォーラムに参加することで、いろいろな気づきがありました。ネガティブでもポジティブでもどちらでもよい、それは生きるための手段。その人らしくできていれば何でもよい。そういうリカバリーフォーラムであって欲しい、と思います。

などの感想が語られました。

最後に、会場全体で、「オー！」というかけ声で集合写真を撮影して、クロージングセッションを終了しました。

◀丹羽大輔（認定NPO法人地域精神保健福祉機構・コンボ）▶

